

2025年（令和七年）

10月31日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（10月23日～29日）の国際石油市場は、ロシア2大石油会社の経済制裁追加、米中関税交渉の行方、OPECプラスの増産方針の観測、米国石油在庫状況等を要素に、狭い範囲で、前週よりわずかに堅調に推移した。

NYのWTI原油先物市場は、10月23日に続伸の61.79ドルで60ドル台を回復したものの、3営業日続落で28日には60.33ドルまで低下したが、29日は反発の60.48ドルで終わり、60ドル台初めの水準を保った。

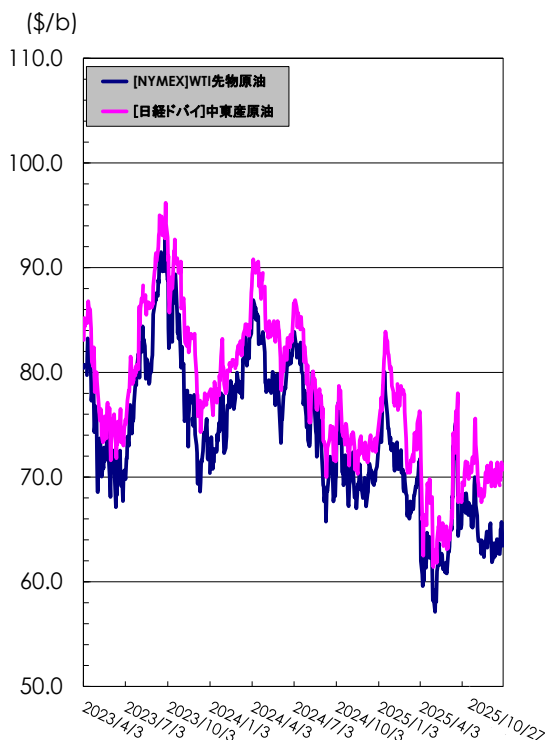
また、中東産バイ原油/東京市場（11月渡し）も、前週（10月16日～22日）は61.20～62.90ドルの範囲で推移したが、当週は、10月23日66.90ドル、24日68.10ドル、27日68.80ドル、28日67.40ドル、29日65.80ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は、前週（10月16日～22日）150.18～151.71円の範囲で推移したが、当週は、10月23日152.26円、24日152.69円、27日153.00円、28日152.57円、29日151.50円だった。

そのような中で、10月27日時点の国内製品小売価格は、

ガソリンが前週比1.0円安、軽油も同0.9円安、灯油は同13円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は173.5円だった。10月30～11月5日の燃料油補助金の支給額は、「予防的な激変緩和措置」が廃止されているため、引き続き、定額分のみ、ガソリン・軽油は10.0円、灯油・重油の場合は5.0円となった。

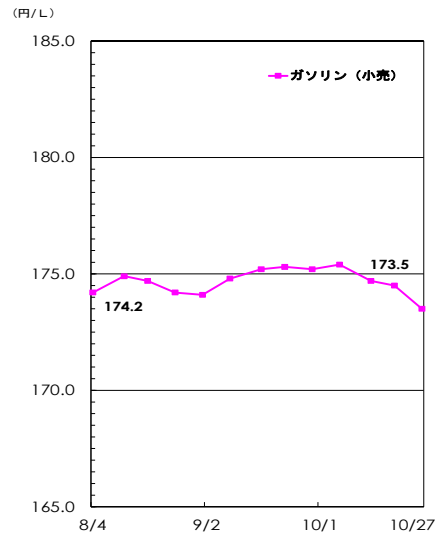
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/19～10/25	2,732 ▲190	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.9 ▲5.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/25	10,027 ▼-378	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	10/28	68.80 ▲7.60	▼ -3.6
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/27	61.31 ▲3.79	▼ -6.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月上旬	74.02 ▲0.75	▼ -6.21
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	68,917 ▲951	▼ -4,686
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	148.04 ▼-0.56	▼ -2.19
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/28	154.00 ▼-2.00	▲ 0.45



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	10/25	1,604	▼ -17	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/21 ~ 10/27	80.6	▼ -0.4	▼ -0.2
		(TOCOM/中部)	10/27	79.0	▼ -1.0 ▲ 0.1
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	10/27	173.5	▼ -1.0 ▼ -1.3

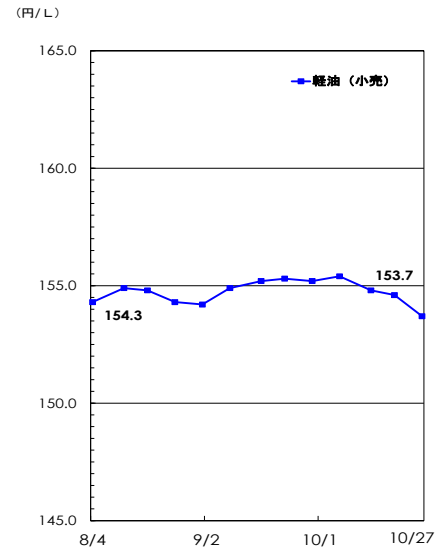
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

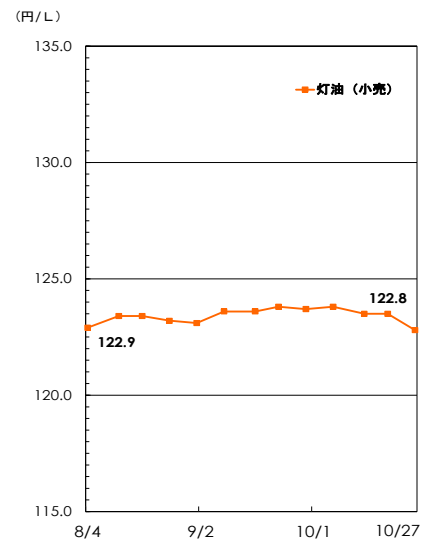
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	10/25	1,430	▼ -2	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/21 ~ 10/27	82.3	▼ -0.6	▲ 1.1
		(TOCOM/中部)	10/27	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	10/27	153.7	▼ -0.9 ▼ -0.8

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	10/25	2,743	▼ -92	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/21 ~ 10/27	84.6	▼ -0.4	▲ 4.6
		(TOCOM/中部)	10/27	82.0	→ 0.0 ▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	10/27	122.8	▼ -0.7 ▲ 5.5



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（10月16日～22日）のNYMEX・WTI先物市場は、57.46～58.50ドルの範囲で推移した。

当週10月23日は、前日夕刻、ベッセント米財務長官は、対露停戦圧力として、ロシアの2大石油会社であるロスネフチとガスプロムを経済制裁対象に追加、欧州も制裁強化に合意しており、緊張は激化、ロシア石油の供給削減懸念拡大から、大幅に続伸した。前日発表の米国石油在庫の減少も値上がり要因となった。前日から取引の中心限月となっている12月物終値は前日比3.29ドル高の61.79ドル。

週末24日は、前日の流れを受けて、買い優勢で始まったが、徐々に、利益確定売り、週末のポジション調整売りが増え、3営業日ぶり反落した。中国もインドもロシア産原油の購入削減を表明したものの、関心は、来週30日韓国で予定されているトランプ大統領と習近平国家主席の米中首脳会談の行方に向かっていることから、反落した。12月物終値は、前日比0.29ドル安の61.50ドル。

週明け27日は、国際エネルギー機関(IEA)が来年の供給過剰400万BDと予想するなど、石油需給緩和の拡大が懸念されるにもかかわらず、2日開催予定のOPECプラス有志8カ国会議で、12月も引き続き、13.7万BDの減産緩和(増産)方

針の継続を確認するとの観測が高まり、続落した。ただ、米中貿易交渉合意への期待もあり、下げ幅は限られた。12月物終値は前週末比0.19ドル安の61.31ドル。

28日は、11月2日開催予定のOPECプラス会合における増産方針維持の観測が高まる中、ドイツ政府が制裁に追加されたロスネフチのドイツ国内事業を制裁対象外となることを確認、IEAのピロル事務局長・サウジアラムコのアルナセルCEOが相次いで対露経済制裁強化の石油供給への影響は限定的であろうと発言するなど、供給懸念が後退したこと

から、続落した。11月物終値は1.16ドル安の60.15ドル。
29日は、米国の前週末の石油在庫が、原油もガソリンも予想を上回る取り崩しで、米国の需給緩和感は後退、4営業日ぶりに反発した。また、翌30日にブサンで開催予定の米中首脳会談を前に、両国貿易交渉の好転の期待も高まった。さらに、米国連邦準備制度理事会(FRB)はこの日、想定通り、0.25%の利下げを発表した。12月物終値は0.33ドル高の60.48ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)の10月29日発表の24日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は前週末比685万バレル減、ガソリン在庫も594万バレル減と、ともに市場予想上回る取り崩しとなり、米景気の減速などによる需給緩和感は後退し、買いが進んだ。

EIAによると、10月27日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.6セント高の1ガロン3.035ドル(123.3円/ℓ)と3週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比9.8セント高の1ガロン3.718ドル(151.1円/ℓ)と4週ぶりの値上がり。

ペーカー・ヒューズ社によると、10月24日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基増の420基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、10月19日～10月25日に休止したトッパー能力は41.9万バレル/日で、前週に対して4.3万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は273.2万klと、前週に比べ19.0万kl増加。前年に対しては13.6万klの増加。トッパー稼働率は78.9%と前週に対して5.5ポイントの増加、前年に対しては3.9ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

10月25日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、灯油、軽油は取り崩し、A重油、C重油は積み増しとなった。

ガソリンは160.4万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては7.9万kl少ない。

灯油は274.3万kl、前週差9.2万kl減。前年に対しては11.2万kl多い。

軽油は143.0万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては6.9万kl少ない。

A重油は80.0万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては4.6万kl多い。

C重油は159.6万kl、前週差5.2万kl増。前年に対しては15.9万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (10/25)	前週 (10/18)	前週比	
ガソリン	1,604	1,621	▼ -17	(-1%)
ジェット燃料	884	886	▼ -2	(-0%)
灯油	2,743	2,835	▼ -92	(-3%)
軽油	1,430	1,432	▼ -2	(-0%)
A重油	800	781	▲ 19	(2%)
C重油	1,596	1,544	▲ 52	(3%)
合 計	9,057	9,099	▼ -42	(-0.5%)

5 国内/元売会社製品卸価格

10月21日～27日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートも円安に振れたことから、10月の中東原油の調整金の値下げ分を控除しても、元売会社の卸建値は大きく値上がりしたものと見られる。また、9月4日以降、補助金は、定額(揮発油・軽油は10円、灯油・重油は5円)で据え置かれていることから、補助金込みの実質卸価格はそのまま値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

10月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.0円安の173.5円、軽油も同0.9円安の153.7円、灯油は18%ベースで同13円安の122.8円(1%ベースでも同0.7円安の122.8円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上りが2都県、横ばいは1県、値下がりは44道府県だった。全国最安値は愛知県の167.3円、その次は埼玉県167.4円であった。他方、最高値は鹿児島県の184.6円。最も値上がりしたのは東京都(前週比0.4円高)、最も値下がりしたのは沖縄県(同3.2円安)だった。

次回調査時(11/4)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/27)	前週 (10/20)	前週比	直近高値	
レギュラー	173.5	174.5	▼ -1.0	2023/9/4 2025/4/14	186.5
灯油	122.8	123.5	▼ -0.7	08/8/11	132.1
軽油	153.7	154.6	▼ -0.9	08/8/4	167.4

小売価格

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第31号) の公表は、11/7 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange:NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate:中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。